B40 ノシメマダラメイガから分離された真菌類

○川上 裕司¹, 春成 常仁², 高橋 治男³, 岡野 清志⁴, 内田 明彦⁵ (¹(株) エフシージー総合研究所, ²イカリ消毒(株), ³千葉県衛生研究所, ⁴(財) マイコトキシン検査協会, ⁵麻布大学)

Some fungi isolated from the indian meal moths, *Plodia interpunctella* in Japan

Kawakami, Y., Harunari, T., Takahashi, H., Okano, K., Uchida, K.

ノシメマダラメイガは著名な食品害虫であり、極めて食性が広く、食品の混入異物としてしばしば問題になっている。演者らは、一般住宅とその周辺の学校での本種の発生消長と食品衛生上の問題を明らかにするために 2004 年 5 月－12 月に捕獲調査を実施し、更に捕獲個体から真菌類の分離を行った。そして、第 26 回日本家屋害虫学会大会で捕獲結果について報告した。本大会では、本種から分離された真菌類の詳細について報告する。調査場所：東京都所在の一般住宅 13 軒、神奈川県所在の一般住宅 5 軒、小学校 2 軒、大学 1 軒。真菌類の分離：フェロモントラップで捕獲した個体を 1 頭ずつ滅菌チューブに移し、リン酸緩衝生理食塩水を加えて洗浄した液を PDA 平板培地に塗抹して培養した。発生した集落を単離して同定し、更にマイコトキシン産生能を検査した。本種から分離された真菌類は、*Cladosporium* spp. 29%, *Aspergillus* spp. 16%, *Penicillium* spp. 11%, 酵母 8%, *Alternaria* spp. 2%, その他 34% であった。また、カビ毒を産生する可能性のある *Aspergillus ochraceus*, *A. versicolor*, *A. fumigatus* などのカビが含まれていた。オクラトキシンを産生する *A. ochraceus* は一般住宅の 12 軒、Y 小学校と O 小学校の動物飼育小屋、A 大学の 3 階ベランダで捕獲した個体から分離され、オクラトキシン産生能を有する株を確認した。これは食品衛生上貴重なデータといえる。

B41 1993 年から 2004 年の市立伊丹病院における毛虫皮膚炎患者に関する検討

夏秋 優 (兵庫医大・皮膚科)

Study on patients with caterpillar dermatitis in Itami city hospital from 1993 to 2004

Natsuaki, M.

1993 年から 2004 年に兵庫県伊丹市の市立伊丹病院皮膚科を受診し、臨床的に毛虫皮膚炎と診断された患者について、年別の患者数、月別患者数を検討した。その結果、年別患者数は 2003 年が 95 名と最も多く、次いで 1993 年が 46 名、1994 年が 32 名、2002 年と 2004 年が 25 名で、それ以外の年は 15 名以下だった。月別患者数では、6 月と 8 から 9 月にピークがあり、チャドクガの幼虫が出現する時期に一致していた。また、2003 年 6 月、8 から 9 月と 2004 年 6 月の患者数は多かったが、2004 年 8 から 9 月には激減し、同様の傾向は 1993 年と 1994 年の月別患者数においても認められた。2003 年から 2004 年のチャドクガの幼虫調査でも、2004 年夏以降は幼虫数が激減していた。神戸市の気象データを調べると 1993 年と 2003 年は冷夏の年、1994 年と 2004 年は猛暑の年であり、これらの気象条件がチャドクガの発生数に影響を与えた可能性が示唆される。